

## 院内における医療機器と電線ラインに係わるアクシ デント・インシデント調査

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2023-05-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 田中, 顯 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.20780/00033443">https://doi.org/10.20780/00033443</a>

# 学位論文の要旨

院内における医療機器と電線ラインに係わるアクシデント・インシデント調査

東京女子医科大学大学院  
先端生命医科学系専攻 先端工学外科学分野  
(指導：正宗 賢教授)

田中 顯

医療の質・安全学会誌 Vol.17 No.4 (2022) 399 頁～406 頁 (令和 4 年 10 月 31 日発行) に掲載

## 【要 旨】

医療機器からの各種ラインは増加傾向にあり、それに伴う医療アクシデント・インシデント (以下 A/I と記す) も増加している。効果的な対策の一つは物理的にラインをなくすことであり、電線ラインのワイヤレス化が A/I 抑制に貢献できると我々は予測した。しかし電線ラインの A/I について詳細な調査は見当たらない。そこで我々は医療現場の電線ラインにおける A/I の原因や現状対策を調査した。事例調査は日本医療評価機構 医療事故情報収集等事業の事例検索から行った。検索結果の内容を分類し、A/I 発生件数の分布形態とその理由の検討、発生状況とその原因を考察した。2010～2019 年における調査の結果、電線ラインに係わる検索結果は 401 件であった。A/I 発生場所は“病室、手術室、ICU 集中型”となり、3 か所の合計が 293 件 (73%) であった。部位別では、機器と電源を繋ぐ電源ラインが 182 件 (45%) と最も多かった。A/I の原因は、66% がヒューマンエラーであった。その対策として 92% が教育・周知や手順書見直し等であった。効果的な対策は電線ライン数を減らすことであり、ワイヤレス化が A/I 抑制の一助になると考えられた。また並行して手術室用ワイヤレス給電システムを試作し、医療機器への給電実証とデモを実施した。